

《専門教育科目 専門基礎科目》

科目名	幼児と言葉				
担当者氏名	荘司 泰弘				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択必修	開講年次・開講期	1年・春期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 専門基礎-5 指導・保育の専門性				

《授業の概要》

乳幼児の言語発達状態を知り、絵本、素話、ストーリーテリング、紙芝居、エプロンシアター、パネルシアターなどの特色を理解し、実技トレーニングをする。乳幼児の非言語表現（ベビーサインやボディランゲージなど）を学び、言語発達の状態を理解する。

《テキスト》

幼保連携型認定こども園教育教育・保育要領

《参考図書》

You Tube の関連箇所

《授業の到達目標》

保育教諭として、こどもの発達状態に応じた豊かな表現を引き出す指導方法を身に付け、保育の場で実践できるようにする。

《授業時間外学習》

発達心理学、乳幼児心理学、言語心理学の技法を学んでおいてください。

《成績評価の方法》

知識・技能・応用力・共同力・意欲に関して各10点で評価し、試験を50点（実技を伴う）として総合評価する。

《備考（教員経験の有無）》

特になし。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	言語教育と言葉の機能	オリエンテーション ボディランゲージと非言語コミュニケーションのトレーニングをする。
2	領域「言葉」の目標	幼保連携型認定こども園教育・保育要領の領域「言葉」について考察する。 パネルシアターのトレーニング
3	言葉の発達条件	絵本の読み聞かせにおける「ながら」活動について考察する。 絵本の読み聞かせのトレーニング
4	言葉の発達状態	こどもの育ちと言葉を概説し、3歳未満児の非言語交流について考察する。 ベビーサインのトレーニング
5	こどもの言葉の特徴	言葉における人的環境として「絵本の読み語り」について考察する。 紙芝居のトレーニング
6	環境としての言葉	こどもの言葉の種類として、幼児語について考察する。 絵本を選定するトレーニング
7	望ましい経験と活動	話し言葉の学習環境として、メルヒェンや昔ばなしについて考察する。 乳幼児の非言語トレーニング
8	保育財と体験	身振りや手ぶりを入れて絵本を読んでもらう意味、伝承や方言について考察する。 絵本読みトレーニング
9	指導計画の作成	ルーティン作業としての指導計画ではなく、指導計画をオノマトピア化することについて考察する。オノマトピアのトレーニング
10	ことばのしつけ	ことばの発音、速度、アクセント、間合いなどについて考察する。 エプロンシアターのトレーニング
11	ことばの治療	ことばが気になる子の理解について考察する。 ことばのセラピートレーニング
12	ことば遊び	ことば遊び（回文・しりとり・早口ことば・数え歌・反対言葉）について考察する。 ことば遊びのトレーニング
13	文字への興味	添い寝読みとTNR (tonic neck reflex) 姿勢での絵本読みについて考察する。 唄い語りのトレーニング
14	言葉の指導の基本事項	体験を表現したい衝動やこどもとの伝えあいに必要なアレンジ力について考察する。 ボディランゲージのトレーニング
15	まとめ	言語遊具の環境を考察する。